

奔潮

たけなづ

「アジアのにぎわい都市・大阪ビジョン」の推進について

～アジアの中で、「魅力と存在感」のある にぎわい都市・大阪をめざして～

大阪府にぎわい創造部国際室アジア交流課主査

鍵田 恒平

はじめに

大阪は今まさに、人口減少期を迎えようとしています。その中でも大阪が持続的に発展を続けていくためには、今、どのような取組が必要なのでしょう。

大阪府では、その答えを導き出すキーワードの一つが「アジア」と考え、この3月に「アジアのにぎわい都市・大阪ビジョン」を策定しました。

このビジョンでは、高成長を続けるアジアとの関係をより一層強固なものとすることによって、大阪が活力と魅力にあふれたにぎわい都市として発展していくことができるという思いから、アジアとの関わりの中で大阪の将来像を描き、その具体化のための施策、事業のあり方を提示しています。

ここでは、本ビジョンの考え方や具体的な取組について簡単に紹介します。

ビジョンの基本理念

(1) なぜ、今、アジアか

今、中国をはじめ、アジアの各地域は急速な経済成長を遂げています。それに伴い、企業活動をはじめ、観光、留学など国境を越えて、人・モノ・情報の交流が活発になってきています。さらに、国境を越えた活動が進み、アジア地域における人と人との相互理解が求められてきています。

こうした中で、アジア全体のさらなる交流と発展を促進するとともに、アジアとの長い交流の歴史を持つ大阪が、都市の活力を高めていくためには、アジアとのつながりを一層深めていく必要があります。

(2) アジアの中で大阪の強み

大阪は、関西国際空港や大阪港、鉄道網、道路網等の交通インフラや国際会議場などのコンベンション機能など国際都市としての都市インフラが整っています。

また、大阪には、優れた技術を持った中小企業やバイオ、ロボット等の先端産業が集積するなど幅広く厚みのある産業体系が形成されています。

さらに、環境や防災、まちづくりなどでは「先発者」としてアジアの発展に貢献しうる技術やノウハウなどを有しています。

こうした強みを持つ大阪だからこそ、アジアの交流と発展を支える都市としての役割を果たすことができるのです。

(3) ビジョンにおける大阪の将来像と3つの視点

① ビジョンにおける大阪の将来像

大阪が様々な「強み」を生かしながら、今後、さらにアジアとのつながりを深めていくには、一層「魅力と存在感」のある都市づくりを進めていく必要があります。

このため、本ビジョンでは、『アジアのにぎわい都市・大阪』という大阪の将来像を目標として定めました。

② 将来像の実現に向けた3つの視点

また、将来像の実現を図るため、「交流」、「協働」、「貢献」の3つの視点から具体的な取組を行うこととしています。

アジアのにぎわい都市・大阪

- 人やモノ、情報が行き交う活気と吸引力を持つ存在感のある都市
- 民が元氣、民主導で新しい課題に常にチャレンジする都市
- 内外の人々が安心して過ごせる安全で快適な都市
- 産業や文化、歴史など個性ある関西の中心として、内外の人々を惹きつける魅力ある都市
- いつでも、日本の首都機能をバックアップできる力を持つ都市
- 国籍や民族、言語、宗教、習慣などの違いを認め合い、一人ひとりの人権が尊重される共生都市



具体的施策（プログラム）の展開方向

(1) 6つの具体的取組方向と取組の検討例

次に将来像を実現するための6つの取組方向と、平成18年度事業を中心に、6つの取組方向に沿った主な取組例を紹介します。

①アジアのセンター機能の構築

アジアの主要都市との友好・連携体制の確立とともに、人・モノ・情報が行き交う仕組みを構築します。例えば、アジアの主要都市の首長が一堂に会し、経済、文化、環境など都市問題の解決に向けたネットワークづくりを行う「アジア主要都市サミット」を平成19年に大阪で開催します。そのイベントとして、今年は「アジア女性経済人会議」や「アジア中小企業フォーラム」を開催します。

また、アジアの人々が求める情報を提供するため、外国人ジャーナリストなどの視点を取り入れたアジア向け広報番組の制作やWebサイトの立ち上げなどを行い、アジア地域に発信していきます。さらに、大阪、関西に「2008年サミット」（主要

国首脳会議）を誘致し、大阪、関西を世界にアピールします。

②にぎわい都市・大阪の魅力アップ

アジアの人々に広く知られ、ともに憩い、楽しめるまちづくりを進めます。例えば、アジアからの観光客を誘致するため、産業集積や高度医療機関の集積など、大阪の魅力を活かしたツアーメニューの開発や、大阪の食文化をテーマとし、大阪の食材を使ったアジア色豊かな大阪の料理を競うコンテストなどを実施します。

③アジアに開かれた大阪づくり

アジアからの人々を迎え入れるホスピタリティあふれるまちづくりに向けた取組を進めます。例えば、府内の薬局において多言語対応可能な健康相談や、医療機関の情報を受けることができる体制づくりを進めるとともに、外国から来た児童・生徒、その保護者が、学校や地域社会へ適応できるよう、指導やアドバイスができる人材を育成します。

④大阪・アジア大交流の展開

様々な分野において、大阪とアジアの間で、

人・モノ・情報が行き交う基盤づくりを進めます。例えば、企業のアジア進出を支援する窓口の設置や、大学、経済界、NPOなどと連携して、海外の留学生が大阪で企業現場を体験できる「海外インターンシップ」などの取組を進めます。

⑤アジアサポートの機能の推進

経験や技術など、大阪の力を結集して、アジアの発展に貢献します。例えば、大阪府が全国自治体に先駆けて実施しているESCO事業の普及やアジアの人々に津波・高潮対策に関する技術や取組などを紹介する「津波・高潮ステーション（仮称）」の整備などを進めます。

⑥首都バックアップ機能の強化

首都圏が万一、その機能を停止した場合でも、わが国、ひいてはアジアの経済社会の安定を維持できるよう、大阪・関西が首都機能をバックアップできる体制を整備します。例えば、国土形成計画などで大阪・関西を、首都機能を代替する都市として位置付けるとともに、首都の持つ様々な機能を効果的・効率的にバックアップするための体制づくりなどを行うよう国に求めています。

「アジアとの交流なくして、大阪の再生なし」この思いで、今後ともみなさんとともに、ビジョンの推進に取り組んでいきたいと思えます。

最後に、アジア交流課は、アジア交流に関する情報発信拠点を目指しています。みなさんから頂いたアジアとの交流に関する様々な情報をもとに、内外に大阪発のにぎわいをアピールしていきたいと思っていますので、ご協力よろしくお願ひします。

ビジョンの推進にあたって

本ビジョンは、「大阪の再生・元気倍増プラン～大阪21世紀の総合計画」の基本計画に併せ、平成22年度を当面の目標年次とし、将来像として掲げる「アジアのにぎわい都市・大阪」の実現に向けた仕組みづくりから行うこととしています。そういったことから、大阪府では、このビジョンの具体化等に向け、平成18年度より、私が所属するアジア交流課をはじめ、「交流」「観光」「空港」といったセクションを一元化した「にぎわい創造部」を設置しました。さらに、全庁が一丸となったビジョンの推進体制として、「アジアのにぎわい都市・大阪ビジョン推進会議」を設置したところです。

もちろん、本ビジョンが目標とする「アジアのにぎわい都市・大阪」の実現には、大阪府だけでなく、府内市町村や府民のみなさん、NGO・NPO、経済界等と一緒に取り組んでいくことが不可欠です。